

生活者の視点を大切に、 国民の生活を守ります。

生団連提言

財政・予算制度改革についての提言
～衆院選にあたり～
・企業部会準備会(勉強会)

会員紹介 *We Are Seidanren!*

・新入会員
株式会社ココスジャパン
株式会社なか卯
株式会社はま寿司
株式会社マルマサフード



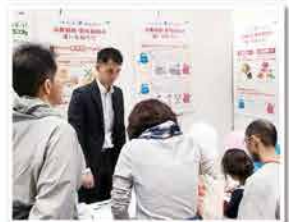
事務局からのお知らせ

・出向者紹介



活動報告

- ・平成29年度 第3回常務理事会・理事会合同会議開催
- ・「わが国の政治課題と今後の政策運営について」
自由民主党 政務調査会長 岸田 文雄 先生
- ・第2回 消費者部会開催
- ・すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト!
「ソナエラボ」取材記事公開中!
- ・「もったいないゼロ
キャラバン」開催
- ・生団連共催
消費者・事業者・行政による
～食品ロス削減シンポジウム～
- ・新・災害対策委員会発足!
- ・第1回「ASU・Mo」開催
- ・交流フェスタ出展
- ・定例勉強会



■ 生団連の使命

「国民の生活・生命を守る」

■ 生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ち足かかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

CONTENTS

■ 生団連の使命・活動指針 P.1	・ 生団連共催 消費者・事業者・行政による ～食品ロス削減シンポジウム～ P.12
■ 生団連提言		・ 新・災害対策委員会発足! P.13
・ 財政・予算制度改革についての提言 ～衆院選にあたり～ P.2	・ 第1回「ASU・Mo」開催 P.15
・ 企業部会準備会(勉強会) P.3	・ 交流フェスタ出展 P.17
		・ 定例勉強会 P.18
■ 活動報告		■ 事務局からのお知らせ P.18
・ 平成29年度 第3回常務理事会・理事会合同会議開催 P.5	・ 出向者紹介	
・ 「わが国の政治課題と 今後の政策運営について」 P.7	■ 会員紹介 We Are Seidanren!	
自由民主党 政務調査会長 岸田 文雄 先生		・ 新入会員	
・ 第2回 消費者部会開催 P.9	株式会社ココスジャパン P.19
・ すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」取材記事公開中! P.10	株式会社なか卯 P.20
・ 「もったいないゼロキャラバン」開催 P.11	株式会社はま寿司 P.21
		株式会社マルマサフード P.22

財政・予算制度改革についての提言～衆院選にあたり～

生団連では、活動の重点課題の一つに「税金のムダ使いへの監視、分析の強化」を掲げています。去る10月12日、衆議院議員総選挙にあたって、「財政・予算制度改革についての提言」と題し、独立財政機関の設立による透明性の高い財政・予算制度の構築を、各党本部に対し提言いたしました。



同提言に対しては、自由民主党、立憲民主党、社会民主党、希望の党、公明党、日本維新の会(返答順)から返答をいただきました。(別紙を含む本提言と、各党からの返答書は、生団連ホームページでご確認いただけます)
<http://www.seidanren.jp/index.php/kouhou>

企業部会準備会(勉強会)

平成29年10月11日(水) 14:00~
ホテルニューオータニ宴会場階「AZALEA」



6月の定時総会で承認をいただいた「企業部会」について、設立準備状況の報告を兼ねた勉強会を開催しました。前段では明治大学大学院の田中秀明先生より講話を頂戴し、後段では衆院選にあたり、国民の視点に立った提言を行うべく議論を交わし、最後に「企業部会」の設立状況等について事務局より報告を行いました。

〈議事概要〉

講話:「財政規律と予算制度改革～選挙で財政こそ議論すべき～」

講演者: 明治大学大学院博士後期課程グローバル・ガバナンス研究科長
公共政策大学院ガバナンス研究科 専任教授
田中 秀明 先生 (講演要旨は次ページに記載)

議事①:「財政・予算制度改革についての提言～衆院選にあたり～」

事務局で作成した提言案を基に、ご参加の皆様より様々なご意見をいただきました。



議事②: 企業部会設立について

「企業部会設立・運営要領(案)」について事務局より報告しました。

- 企業部会設立趣意
- 生団連の企業会員、業界団体会員が「企業部会」の対象。
- ただし、議論、審議、決議および提言・発信活動の機動性と実効性を担保するため、「企業部会幹事」を選任し、「企業部会幹事会」を設置。

勉強会

「財政規律と予算制度～選挙で財政こそ議論すべき～」

田中 秀明 先生

明治大学大学院博士後期課程グローバル・ガバナンス研究科長
公共政策大学院ガバナンス研究科 専任教授



東京工業大学工学部卒、同大学院修了。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス修士(社会保障政策)、政策研究大学院大学博士(政策研究)。1985年、大蔵省(現財務省)に入省し、予算・財政投融资・自由貿易交渉・中央省庁等改革などに携わる一方、国税庁、内閣官房、内閣府、外務省(在マレーシア日本大使館)、厚生省(現厚生労働省)などで勤務。また、2003～05年オーストラリア国立大学、2007～10年一橋大学経済研究所で教育・研究を行う。国際協力機構(JICA)、経済協力開発機構(OECD)、国際通貨基金(IMF)などのプロジェクトなどにも参画。

〈講演要旨〉

●諸外国における財政事例

- ・財政の透明性が高い国ほど財政赤字が少ない。
- ・金融危機でも訪れない限り、財政規律を守ろうという心理はなかなか働かない。
 - ☞ スウェーデンでは、3年先の歳出上限を決める中期財政計画を策定。
 - ☞ ニューゼalandでは、民間企業と同じような会計ルールを導入。

●日本の問題点

- ・財務大臣の権限が弱い。
- ・予算制度の透明性が低い。
 - ☞ 財政規律を高めるには、権限の集中と透明性を高める必要がある。
- ・シーリングはあるものの、補正予算や特別会計が対象外となっているため機能しない。
- ・コミットメントが非常に弱い。
 - ☞ コミットメントを働かせるような予算制度にするには、シーリング、財政責任法、そして独立財政機関の設置が必要。
- ・財政面から見た社会保障、教育制度の問題(一般財源の投入、逆進性の強い保険料)。

提言に関して各政党からの返答

(返答書到着順)

政党名	内容(一部抜粋)
自由民主党	財政再建の旗は降ろさない。国民の理解と納得が得られるような具体的な計画を作る。その意味で時宜を得た提案をいただいた。中期的な歳出枠の設定。予算の客観的な評価指標の設定と検証。そしてこれらの国民への開示など、生団連の提案内容を可能な限り計画に盛り込めるよう取り組みたい。
立憲民主党	生活者の視点を大切にする立憲民主党として、誠意をもって検討を行う。
社会民主党	税金が本当に国民のために適切に使われているのかという問題意識を持ち、まずは実体の見える化を図るべく、予算や財政に関する情報開示の徹底及び一層の透明化に尽力していく。
希望の党	独立した財政機関が創設されれば、社会保障費用の増大という重要課題にも応えていけると考える。生団連の提言をしっかりと受け止めて、今後の政策立案活動に生かしていく。
公明党	中長期的視点の確立、透明性の高い予算編成等、公明党の考えと軌を一にするもの。中期的な歳出枠の設定などにより、予算の客観的な評価指標の設定・検証を行い国民へ開示することは極めて重要な提案であり、可能な限り推進していきたい。
日本維新の会	財政規律を取り戻す取組みとして、「財政責任法」の制定、国の債務残高減等、基本方針の策定が必要。しっかりと取り組んでいく。

各政党からの返答書全文は、生団連ホームページでご確認いただけます。
<http://www.seidanren.jp/index.php/kouhou>

平成29年度 第3回常務理事会・理事会合同会議開催

平成29年12月1日(金) 12:15~
ホテルニューオータニ「鳳凰の間」



本会では、67名の役員（代理出席含む）の皆様にご出席いただき、「平成29年度活動状況について」、「会員の異動について」、「役員会の開催日程について」をご報告・決議いたしました。

特に「平成29年度活動状況について」は役員の皆様より活発なご意見を頂戴し、大変有意義な会となりました。



当日の議事から

冒頭に、自由民主党政務調査会長 岸田文雄先生よりご高話を頂戴し（内容は次ページに掲載）、その後「平成29年度活動状況について」を中心に議事を行いました。会長と事務局からこれまでの活動と今後の方向性について報告を行い、出席の役員会員より「アクションプランを確実に遂行していくことで、生団連をさらに大きく発展させよう」とのご発言もあり、皆様によって承認されました。

また、岸田政調会長の「2019年度は大変重要な年になる」というお話を聞き、同じく役員会員より「2019年度は生団連が主役の場に出ていくという強い確信を持った」とのご意見をいただくなど、一同大いに盛り上がり、今後の課題取り組みへの皆の意を一層強くした会となりました。



「平成29年度活動状況について」の要点整理

(1) 重点課題の主なアクションプラン

重点課題	アクションプラン
災害情報ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ●新・災害対策委員会を軸に、情報収集と支援体制の基本スキーム（フェーズ1）の年度内立上げ ●自治体との連携や災害弱者対応、会員内備蓄パッケージ構想等を織り込んだフェーズ2の始動
分別・リサイクルに係る諸問題の解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●「プラスチック・リサイクル法」の策定を検討 ●消費者・事業者・自治体全当事者のコスト削減と、分別ルールの全国標準化を目指す
税制問題	<ul style="list-style-type: none"> ●最注力課題として、透明性の高い財政・予算制度の構築に向けた研究と提言の継続 ●軽減税率導入、研究開発税制についての審議継続など
労務問題	<ul style="list-style-type: none"> ●「外国人技能実習制度の拡充」と「社会保険の被保険者区分選択制導入」についての議論と、他団体との連携の強化 ●「同一労働同一賃金」に関する議論を深め、政官への働きかけを強化

(2) 組織改革

- ・「第2回消費者部会(11/20開催)」での議事内容の報告
- ・企業部会設立・運営(基本)要領案策定の報告と、2月開催予定「企業部会幹事会」についての報告
- ・事務局の強化について

(3) その他

平成29年度第3回常務理事会・理事会合同会議



自由民主党 政務調査会長
岸田 文雄 先生

「わが国の政治課題と 今後の政策運営について」

“成長の果実”を 国民一人一人に届ける経済政策

先日の第48回衆議院選挙は、1ヶ月ほどの間に野党の枠組みが変わり、大変目まぐるしい選挙でありました。生団連に加盟されておられます多くの団体の皆様方、関係者の皆様にはお世話になりましたことを心から厚く御礼申し上げます。この選挙において約束した政策・公約を実現するため、これからしっかりと汗をかかなければならないと強く感じております。

今の政権の経済政策の結果、名目GDP・企業収益・大学生の就職率、あるいは外国人観光客の訪日数は史上最高を更新し続けています。また、全国47都道府県で正社員の有効求人倍率は1を超え、多くの企業において4年連続ペースアップが続いていることから、間違いなく“成長の果実”と言うものが存在すると思います。しかしながら、多くの皆様による「全く実感できていない」と言う声があるのも事実です。国民一人一人に“成長の果実”を届けるためには、賃金を引き上げて力強い消費につなげることで成長・所得・消費という経済の循環を完成させることが重要です。そのためには、企業・社会の生産性を高めて設

備投資や賃金に振り向けてもらうことで消費につなげていかなければなりません。そして、消費に対する最大の不安要因である少子高齢化を念頭に、子育てや介護の部分に集中的に政策を投入するべきではないかと考えております。

企業や社会の生産性革命として、今や世界で大きな動きとなっている、AI・IoT・ビッグデータなど最先端のイノベーションをリードしていかなければならないと思っています。こうした動きは大企業だけではなく、日本の経済の大半を占めている中小企業や零細企業の事業承継を進めることも生産性に関わる重要なポイントではないでしょうか。中小企業や零細企業の経営者の平均年齢はどんどん上がっており、このまま高齢化が進み後継者不足となれば、企業の生産性の低下にもつながります。税制等の支援をすることで事業承継を進め、生産性を高めていきたいと考えています。将来の不安を解消していくためには、子育てや介護など社会保障についても考えていかなければなりません。今や人生100年の時代が目前に迫っており、その100年を充実させるためには、高等教育の在り様や、全世代型の社会保障体制が必要であり、その議論を進めているところです。

財政の透明性を高めていく必要性

今回の選挙においては、財政、あるいは予算制度について思い切った改革を行うべきである、と生団連の皆様方から政策提言をいただきました。国の財政規律について、財政の透明性を高めていくことはまさに重要です。「独立財政機関を作り、日本の予算、財政を監視すべきではないか」など、スウェーデンの例を挙げてのご提言は大変参考になります。

政府としては、日本においてプライマリーバランスの黒字化、そして負債のGDP比を考えながらコントロールをしていくことを財政再建の目標に掲げています。これについては来年の初めに政府が様々な数値の試

算を出すようになっており、それに基づいて議論をし、財政再建に向けて取り組んでいきます。

緊迫する北朝鮮問題、米・中との太い絆を

北朝鮮問題については、最も切迫した問題であると認識しています。今年、多くの弾道ミサイルが発射され、その間には米韓合同演習、トランプ大統領のアジア歴訪、さらには5年に一度の中国共産党大会が開催されるなど、国際的に大きな動きがありました。今年の夏まで4年8ヶ月、外務大臣を務め、短期間ながら防衛大臣も兼務した立場として、この北朝鮮の技術の進歩には大変な脅威を感じています。その脅威から日本を守るためにはまず、ミサイル防衛体制の維持・レベルアップが重要です。次に日米同盟の強化。科学技術が進歩して国際情勢が複雑化している今、一国では自分の国を守れないというのが世界の外交安全保障の常識となっているのです。そして外交を通じて北朝鮮へのメッセージを伝えること。ここで重要なのが対話と圧力です。対話のための圧力という駆け引きを行うことが、日本の外交能力の間われるところとなります。これらを同時並行的に進め、日米関係とさらには日中関係、この2つの国との関係をしっかり進めていくことが大変重要なポイントになるのではないのでしょうか。

5年前に第二次安倍政権がスタートした際、日米関係は厳しい状況にありました。そんな中、米国連邦議会上下両院合同会議において日本の総理大臣として初めての演説、オバマ大統領の広島訪問、G7サミット議長国としての対応、さらには総理の真珠湾訪問もありました。これらの取り組みによって今、日米関係は戦後最高と言われるようになりました。また、北朝鮮問題を考える際、この日米関係を大切にしながら重要になってくるのが、中国との関係であると思います。私が外務大臣に就任した5年前、日中関係は本当に惨憺たる状況でしたが、辛抱強い働きかけで会談を積み重ねることによって首脳会談が行えるようになり、外相会談が可能になりました。中国は北朝鮮の貿易の9割を担っており、北朝鮮に対する制裁、圧力は中国

が動かなければ実効性のあるものにはなりません。中国に建設的な行動を求めていくためにも、日中関係をより安定させなければならぬと思います。

また、公約としては今回初めて憲法改正を掲げました。今の憲法における3つの基本的な原則である国民主権、基本的人権の尊重、そして平和主義。この原則は、今後も変える事はありません。その上で、自衛隊の明記、緊急事態対応、教育の無償化・充実強化、参議院の合区の解消、この4項目について議論を行って参ります。

日本が世界から注目される2019年に向けて

私は2019年が日本国にとって正念場の大変重要な年になるのではないかと考えています。皇室会議が開かれ、平成31年4月30日の天皇の退位が明らかになり、平成の次の時代が始まります。

外交においても、日本が初めてG20の議長国を務めます。G7の議長国は何度も経験していますが、G20は中国・ロシア・インド・韓国など多くが参加するため、日本外交の力が試される時でもあります。またラグビーのワールドカップも開催され、治安対策やテロ対策、日本の社会の安定が問われることにもなるでしょう。それ以外にも、アフリカ支援であるTICADの会議も行われる予定で、日本の政治経済や外交、スポーツにおいて、世界中から注目を集める大きなイベントが2019年に集中しています。これを乗り越えるだけの力を日本がしっかり持つことができるかが重要です。2019年に向けて、政治、経済、外交など様々な課題にしっかり取り組み、努力をしていきたいと考えております。



第2回 消費者部会開催

平成29年11月20日(月) 13:00~
JR品川イーストビル 8階 大会議室



第2回消費者部会を開催いたしました。
今回は9団体から12名の方にご出席
いただき、以下の議題について議論・
意見交換いたしました。

- ①IR(統合型リゾート)推進における「カジノ解禁」
- ②軽減税率導入
- ③女性就労支援
- ④子どもや女性に対する暴力のない安心安全で健全な社会づくり

各議題について、論点の整理、問題点の共有、具体的なアクションプランについて議論し、今後は企業部会幹事会や理事会での議論、会員向けヒアリングの実施等の活動に取り組んでまいります。



議長を務められた一般社団法人消費者市民社会をつくる会 阿南代表理事



豊富な経験からお話された特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 谷茂岡会長(右)



地域の活動から様々な報告をされた堺市消費生活協議会 山口会長(左)



生活者の目線で提案された公益社団法人札幌消費者協会 高橋会長



海外事情にも詳しい特定非営利活動法人関東シニアライフアドバイザー協会 佐藤理事長(右)



会員団体の意見も集約くださった一般社団法人全国消費者団体連絡会 小林事務局次長



地域の声をお伝えいただいた埼玉県地域婦人会連合会 植田副会長



軽減税率等の問題にも研究熱心な一般財団法人消費科学センター 古川理事



今回初参加となった特定非営利活動法人まちこらぼ 柴田理事長



すぐにはできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」取材記事公開中!

ソナエラボ ソナエラボでは「これならできそう!」な防災情報を公開しています。

亀田製菓株式会社様

「亀田の柿の種」から「おかゆ」まで!災害時のお米のカタチ

米菓の主原料であるお米に特化した研究から生まれた災害時にも役立つ商品や、お子様のいらっしゃるご家庭でのローリングストックについて、お話を伺いました。



▲舌でつぶせる柔らかさが特徴のユニバーサルデザインフード



▲栄養・水分・電解質の補給をサポートする「イオンバランスおかゆ」



▲インタビューにお答えいただいた新規事業グループ お米研究所 部長代行・主任研究員 渡辺様

株式会社横浜岡田屋様

水いらず、調理いらず、さらに皿いらず!「そのまま食べる」新しい防災食

美味しさや便利さの追求といった保存食としての機能を十分に備えると同時に、「災害時でも食欲がわいて明るく元気になってほしい」という願いを込め、パッケージデザインにもこだわった商品を開発されています。



▲新防災食シリーズはなんと全40種のバリエーション



▲うまみを感じるしっかりとした味付けながらも塩分は控え目



▲インタビューにお答えいただいた商事事業部 第二外商グループ グループリーダー 中山様



ソナエラボでは「すぐにはできる、防災のアイデア」を随時募集しています。
会員の皆様の防災への取り組みも、ぜひお教え下さい。

◆◆◆記事詳細はこちら⇒ <http://www.seidanren.jp/sonaelabo/>

ソナエラボ 検索

「もったいないゼロキャラバン」開催

世田谷区主催 「エコフェスせたがや2017」出展

10月7日(土)、二子玉川ライズ ガレリア イベントスペースにて開催された世田谷区主催「エコフェスせたがや2017」に出展いたしました。環境問題に対して様々な活動をしている各事業者や団体が、工夫を凝らした内容のブースを展開し、多くの方が参加された盛大なイベントとなりました。生団連としては、日頃から発信している食品ロス削減のための意識・知識・管理のポイントについてご理解いただける良い機会になりました。



消費期限は安全の期限、賞味期限はおいしさの期限。
だから賞味期限を過ぎたからといってすぐに捨てるのはもったいないよ！



上尾市主催 「もったいないゼロ2017」出展

10月15日(日)、上尾ハウジングステージにて開催された上尾市主催「もったいないゼロ2017」に出展いたしました。このイベントは、3Rを楽しみながら学べる体験型のごみ減量啓発イベントです。エコトークショーやワークショップ等が行われ、生団連としてはもったいないゼロパネル展、またクイズラリーの実施と食品ロス削減啓発動画の上映を行いました。悪天候ではありましたが、「食品ロスの現状」、「消費期限と賞味期限の違い」等について学んでいただきました。



こうした自治体のイベントへの出展や、会員の皆様の事務所や店舗での開催招聘にご興味ある方は、お気軽に事務局までご連絡ください！



生団連共催 消費者・事業者・行政による ～食品ロス削減シンポジウム～

11月30日(木)、東京都、日本生活協同組合連合会、生団連の3者による共催で「食品ロス削減シンポジウム」を開催いたしました。生団連からは「食品ロス削減に向けた生団連と会員企業の取り組み」というテーマで事例報告を行いました。

「国民の生活・生命を守る」という理念の基に消費者と企業が協力している生団連らしく、「食品ロス削減においても、消費者と企業は協力できる」をキーワードに報告を行いました。家庭での食品ロス削減のポイントやもったいないゼロキャラバンによる啓発活動について、また会員であるコカ・コーライーストジャパン株式会社様とヤマキ株式会社様の事例を交え、「持続的な食品ロス削減の取り組みの重要性」、「事業者から排出される食品ロスに対して消費者ができること」、「次世代へ向けて、食育として伝えること」の3点をご来場の方々に訴えました。

その後の質疑応答では「買い物前の冷蔵庫・冷凍庫の在庫確認の大切さ」や、「賞味期限の短いものを購入することは事業者の食品ロス削減に貢献する消費活動である」といったことをお伝えしました。



▲事例報告を行う事務局中川マネージャー



▲質疑応答の様子

家庭から出る食品ロスだけでなく、事業者から出る食品ロスにも僕たちができることはあるんだね。これからは、すぐ食べるものなら奥から取らずに、期限が短いものを選んで購入するようにします！



食品ロスの削減には、企業・行政・消費者みんなで取り組むことが重要だとわかったわ。とても大きな問題だけれど、一人一人が自分でできることからやっていくことがとても大切だね！



新・災害対策委員会発足!

平成29年11月27日(月) 14:00~
東海大学校友会館「富士の間」

「新・災害対策委員会」を開催し、今年度の重点課題の一つである「災害情報ネットワークの構築」に向け、災害発生時の『情報収集』と『支援の体制』について議論いたしました。



▲事務局より、議題について説明と報告を行いました



▲ご参加の委員より、意見や質問をいただきました

■議事内容:「災害ネットワークの構築」に向けて

(1) 災害発生時の情報収集について

既に災害対応の体制を構築されている会員との連携を中心に検討。発災時、各会員が収集した情報を生団連に集め、全会員で共有。

- 各会員企業と自治体との包括協定など、既存の災害対応スキームについてのヒアリングの継続
- 今後、会員からどのような形で、どのような内容の情報を収集するかフォーマットやルールを検討

(2) 災害発生時の支援体制について

災害支援に取り組むNPO法人等とともに災害時情報共有スキームを構築。

- 現在、以下2団体と今後の協働について協議中
一般社団法人Smart Survival Project (SSPJ)
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン (PWJ)
- 熊本地震などで実績のある、SSPJの災害時支援システム「スマートサプライ」を生団連版として運用することを検討



スマートサバイバープロジェクト様



ピースウィンズ・ジャパン様

一般社団法人Smart Survival Project様、
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様には、
12月1日付で生団連に入会いただいております。

今後、「災害情報ネットワークの構築」に向けてご協力いただく2団体をご紹介します。



SMART SURVIVAL PROJECT

必ず来る「想定外」を、大切な人と生き抜くために。
知れば、未来は変えられる。

一般社団法人Smart Survival Project

一般社団法人Smart Survival Project (通称:スマートサバイバープロジェクト、略称:SSPJ) は、東日本大震災を通して得られた教訓や叡智を活かして命を守り、組織の不条理を減らし、社会に役立つ仕組みを広め、希望に溢れた未来を切り拓くプロジェクトを支援していきます。主な活動は、
(1) 「スマートサプライ」必要な人に、必要な支援を、必要な分だけ届ける支援マッチングシステムの提供
(2) 「スマートアクション」あたらしい未来を拓き、いのちを守る教育・研修プログラムの提供
(3) 「スマートプロテクター」やさしく、つよく、うつくしい、日常と非常をつなぐ防具の開発
の3つで、現在は福岡市×イオングループ×SSPJの協働プロジェクト「備災のまちづくり@福岡」が始動しています。

【基礎データ】

- 設立認証: 2015年10月1日
- 連絡先: 〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104
早稲田大学商学学術院11号館
- 電話番号: 050-3825-2165
- URL: <http://sspj.jp/>
- Facebook: <https://www.facebook.com/smart.survival.pj/>



◀「熊本地震」の際の支援の様子

講演の様子▶



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン (略称:PWJ) は、政府だけが公益を引き受けるのではなく、私たちのような民間組織も公益の実現に大きな役割を担うべきだ、という思いで「社会課題の解決」に取り組んでいます。21年前にイラクで旗揚げしたPWJは、海外の人道支援で積み上げてきた経験を国内でもいかすべく、「国際協力の団体」から、様々な分野の課題に挑む「総合NGO」への脱皮を図ってきました。今後もその歩みをさらに加速させて、社会に変革をもたらすための土台を意味する「ソーシャルイノベーション・プラットフォーム」への進化を目指します。



代表理事 兼 統括責任者
大西 健丞

《ミッション》人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、
希望に満ち、尊厳をもって生きる世界をめざします。

【基礎データ】

- 設立: 1996年2月
- スタッフ数: 290名 (本部契約スタッフ70名、事業別契約スタッフ220名)
- 所在地: <本部> 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2階
<東京事務所> 渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階
- 電話番号: 03-5738-8022 (東京事務所)
- URL: <http://peace-winds.org/>



▲「九州北部豪雨」の被災地で孤立した集落へ向かうレスキュー隊員ら

第1回「ASU・Mo」開催

ASU・Moとは

「Active Senior Utility Model (アクティブシニア・ユーティリティモデル)」の略。企業とシニアの方々が直接対話できる場として新設しました。会員企業1社によるプレゼンテーションと企業・シニアのグループインタビューで、企業にとっては消費者の生の声を聞くことができる場であり、シニアの方は企業について知り、今後の豊かな生活につながる情報を得ることができます。

【開催概要】

日時:11月17日(金)

参加会員企業:花王グループカスタマーマーケティング株式会社

テーマ:花王の企業理念について

～自然と調和する ころ豊かな毎日を目指して～



花王グループカスタマーマーケティング株式会社
マーケティング部門マーケティング推進部長
白石 和彦様よりプレゼンテーションいただきました。

白石様からは、事業内容やグローバル展開をはじめ、花王グループの全社員が共有している“よきモノづくり”への理念「花王ウェイ」のご紹介等、具体的な製品の事例を交えながらお話いただきました。

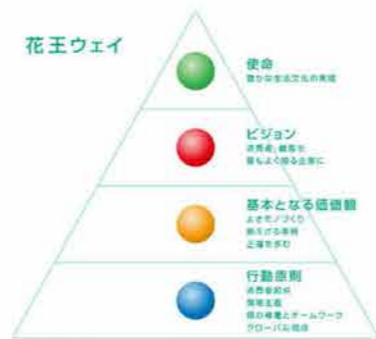
以下、当日のテーマとそこであがったご意見の一部をご紹介します。

テーマ① 花王の企業イメージについて(商品、CM、その他活動)

- 洗濯板で洗濯していた時代もあったが、その頃は花王の石鹼をよく使っていた。
- シャンプーの詰め替え等、エコパックへの取り組みが先進的。
- クイックルワイパーは画期的な商品。猫の毛も難なく取れる。
- 特に化粧品において、他社に比ベインバウンドを活かしきれていない印象。
- 企業の歴史から信頼を感じられるので花王のマークを見て購入する。



花王(株)ホームページより



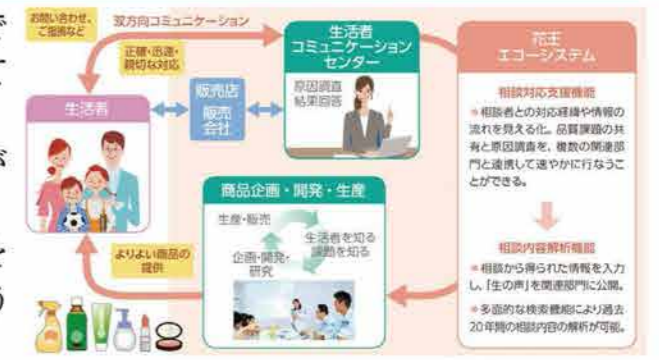
花王(株)ホームページより

テーマ② 企業理念「花王ウェイ」について

- 企業理念がしっかりしていて、研究に時間とコストをしっかりとかけられている。例えば、スプレータイプの食器洗剤は、以前澤田社長がテレビ出演した際、泡の研究を20年も30年も行っていると話しされていて感動した。

テーマ③ 生活者コミュニケーションセンターの活動について

- 生活者からの意見をデータとして残し、全員で共有していることはすごい。別の方に伝わっていないと再度、一から話さなくてはならない。
- 花王ではないが、コールセンターが非常に繋がりにくい。一度でつながったことがない。
- 髪がふわっとするシャンプーが欲しいという話を以前に工場見学の際に伝えたら、セグレタという商品が発売された。これは本当にうれしかった。



花王(株)ホームページより

テーマ④ 手洗い講座などの啓発活動・ケミカル事業について



花王(株)ホームページより

〈啓発活動について〉

- 花王に限らず、多くの企業がテレビ番組の協賛を行っているが、商品を紹介するだけでなく企業理念やサステナビリティの取り組みもPRしてほしい。また高齢者向けには、使い方や使う量もCMで紹介してほしい。
- 子ども向けの手洗い講座では、しっかり洗ったようでも意外と洗えていないことがわかる。一方で神経質になり過ぎる子もいるので、今行ってくれている「手洗い歌」などのように楽しく学べる内容を継続してほしい。

〈ケミカル事業について〉

- 低燃費タイヤを作るために必要な新シリカ分散性向上剤や、高強度・高耐久コンクリートを実現する「マイティ」のような化学事業のことは知らなかった。このような事業があるからこそ、様々な研究をされていることがわかる。

テーマ⑤ 花王の商品への提言・要望や、日常生活でお困りのこと

- 年齢を重ねるにつれて、シャンプーとリンスを間違えることが多くなってきた。ボトルの「シャンプー」と「リンス」の文字をもっと大きくわかりやすくしてほしい。
- シャンプーとリンスのボトルの形を変えることはできないのか?ユニバーサルデザインの観点から、花王だけではなく業界全体で考えてほしい。
- 介護をしている人にとって、臭いの問題は非常にデリケートであり、ストレスを感じている人も多い。本日、「消臭ストロング」という商品を紹介してもらったが、積極的に宣伝してほしいし、介護用品のコーナーなどで取り扱う店舗を増やしてほしい。



▲参加された方々から、多くの質問・意見があがりました。その一つ一つに白石様が丁寧にお答えくださいました。

参加希望の会員企業を募集しています! お気軽に事務局までご連絡ください!

交流フェスタ出展

10月20日(金)と21(土)に東京都消費者月間実行委員会が主催する「交流フェスタ」に出展いたしました。「消費期限と賞味期限を理解しよう!」をテーマに、クイズラリーを行い、多くの方にブースにお立ち寄りいただきました。

クイズラリー

問題

以下の食べものの中で、「消費期限」ではなく、「賞味期限」が設定されているものはどれ?

① サンドウィッチ
② ケーキ
③ ソーセージ

答えはどれかな?

◀当日生団連のブースで出題した問題。正解は③。

ソーセージは賞味期限が設定されています。消費期限と賞味期限の違いをご存知なかった方も多く、「勉強になった」、「今後は賞味期限を少し過ぎても捨てないようにする」といったお声をいただきました。



◀当日の様子
▶2日間で昨年を上回る約38,000人の方が来場されました。小さなお子様もクイズラリーに参加してくださいました。



◀生団連のブース



東京都浴場組合の公式キャラクター「ゆっポくん」も会場を盛り上げてくれたよ。



定例勉強会

国際経済研究所と共催で定例勉強会を開催しています。毎回講師の先生をお招きし、様々なテーマでご高話を頂戴し、質問・疑問にお答えいただいています。ご興味ございましたら、是非ご参加ください。

	講師の先生方	テーマ
10月度	加藤 達也 先生 (産経新聞東京本社編集委員 ・前産経新聞ソウル支局長)	『日本と朝鮮半島の行方』
11月度	石破 茂 先生 (衆議院議員・元国務大臣)	『混迷する世界情勢と2018年日本の政治経済大予測』

(講師の肩書は講演当時)



10月度



11月度

事務局からのお知らせ

《出向者紹介》



10月よりキリンビール株式会社から出向してまいりました宮川典之と申します。

2007年にキリンビールに入社し、工場の人事労務関連業務や飲食店様に対する営業活動等を経験してきました。

生団連が掲げる「国民の生活・生命を守る」という使命を果たすべく、様々な課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。ご指導のほど、何卒よろしくお願いいたします。

《編集後記》

生団連は、2017年12月2日をもって、発足6周年を迎えました。日頃よりご支援いただいている皆様に改めて感謝を申し上げます。

先日開催されました「第3回常務理事会・理事会合同会議」の中では、事務局に対する温かい励ましのお言葉もいただき、一同大変うれしく思うとともに、生団連に対する期待の高さを実感しました。

2018年も、会員の皆様の期待に応えられるよう、より一層邁進してまいります。ご意見等ございましたらお気軽に事務局までお寄せください。

新入会員〈株式会社ココスジャパン〉



株式会社ココスジャパン

株式会社ココスジャパン

【基礎データ】

- 設立：1978年4月
- 従業員数：6,234名(2017年3月末現在)
- 事業内容：レストラン経営
ファミリーレストラン「ココス」
メキシカンレストラン「エルトリート」
- 所在地：〒108-0075
東京都港区港南2-18-1
JR品川イーストビル
- 電話番号：03-6833-8000(代表)
- U R L：http://www.cocos-jpn.co.jp/

おかげさまで、(株)ココスジャパンは、来年4月を以て創業40年を迎えます。

店舗数につきましては、直営507店舗(ライセンス78店舗)となり、9月に鹿児島県初出店を行い、全都道府県への出店を達成いたしました。

2000年に「フード業世界一」を目指す(株)ゼンショーホールディングスへの仲間入りをして以来、「すべての人が、いつ、どんな組み合わせで来店されても、全員が満足していただけるレストラン」を目指して、地域に根付いた店舗づくりをしてきました。

今後もより一層、地域の皆様に愛される店舗づくりを行って参ります。皆さま、宜しくお願いいたします。



店舗スタイル



中華海鮮あんかけご飯



メキシカンレストラン「エルトリート」



プレミアムハンバーグリッチスタイル
(トリュフソース)



苺クレープ

生団連 入会のご挨拶



代表取締役社長
池田 安希子

私たちの生活の軸となる「衣・食・住」。その中で「食」はいうまでもなく、命を保つために欠かせないものです。「食」を通じた喜びを多くの方に提供することが自身のミッションであり、「食を通じて世界中の人々の幸せを創造する」ことがココスジャパンの企業理念です。

生団連の「国民の生活生存に必要な生活必需品(衣・食・住)の安心、安全、安定した供給を可能とするため、国民の生活と生命の防衛及び更なる安全と質的向上に大きく寄与すること」に共鳴共感し、入会いたしました。

すべての人に愛されるレストランを目指して日々精進する事で、少しでも寄与出来れば幸いです。御座います。

新入会員〈株式会社なか卯〉



株式会社なか卯

【基礎データ】

- 設立：1966年2月
- 従業員数：8,500名
(2017年10月末現在)
- 事業内容：丼ぶりとうどんの和食ファストフード
- 所在地：〒108-0075
東京都港区港南2-18-1
JR品川イーストビル
- 電話番号：03-6833-8820(代表)
- U R L：http://www.nakau.co.jp

(株)なか卯は1969年10月、大阪府茨木市に第一号店となる手作りうどんの店を出店いたしました。社名の由来は創業者名の一字である「なか」と、「うどん屋」の「う」であり、同音の縁起文字「卯」に変え『なか卯』と決めました。設立から50年の歴史を持つ会社であり、現在462店舗(内、FC店13店舗)を展開しております。

なか卯は創業当時から

お客様の健康に寄与する安全な商品

を基本姿勢として営業を行っております。

2005年7月に「世界から飢餓と貧困を撲滅する」「世界中の人々に安全でおいしい食を手ごろな価格で提供する」という企業理念を掲げるゼンショーグループの一員となりました。グループのスケールメリット、シナジー効果を発揮し、より一層、皆様に愛されるお店を目指してまいります。

今後ともよろしくお願いたします。



店舗外観



店内風景



主力メニュー

生団連 入会のご挨拶



代表取締役社長
石井 憲一

(株)なか卯は、「安全でおいしい商品の提供を通じてお客様の健康に寄与する」という基本姿勢をもって日々店舗の営業を行っております。この度は生団連の「国民の生活と生命の防衛及び更なる安全と質的向上に大きく寄与する」という素晴らしい理念に強く共感し、入会させていただくはこびとなりました。我々もこの理念に「食」を通じて貢献してまいりたいと思います。

皆様よろしくお願いたします。

新入会員〈株式会社はま寿司〉



株式会社はま寿司

【基礎データ】

- 設立：2002年10月
- 従業員数：21,969名(パート・アルバイト含む)
※2015年3月現在
- 事業内容：回転寿司「はま寿司」の経営
- 所在地：〒108-0075
東京都港区港南2-18-1
JR品川イーストビル
- 電話番号：03-6833-8032(代表)
- U R L：http://www.hamazushi.com

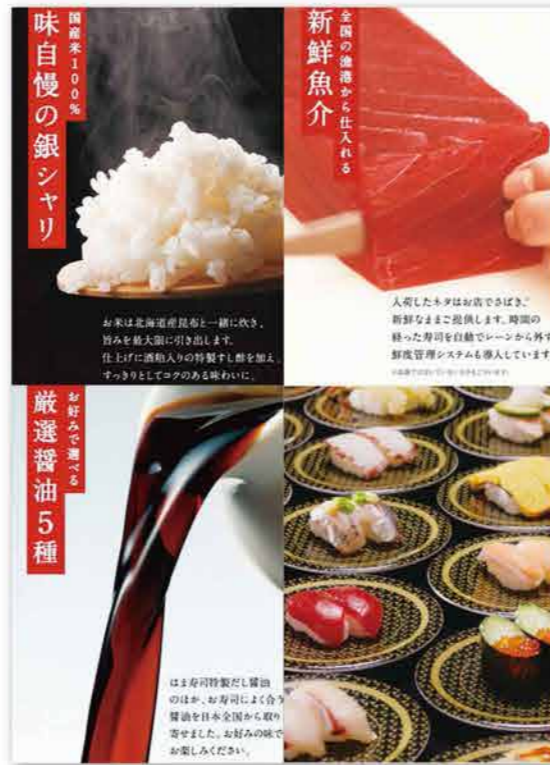


店舗外観

2002年、(株)はま寿司は栃木県足利市に1号店を出店。「全国のお客様に、安全でおいしいお寿司を手頃な価格で食べていただきたい」という思いから、日本全国への出店を加速し、2017年10月末現在で482店舗を構えています。

まぐろ・はまち・鯛などの魚をその日に店舗で切りつけるなど、ネタ・シャリ・醤油すべての食材にこだわった商品をお手頃な価格で提供するため、今後もより一層努力してまいります。

皆様、宜しくお願ひ致します。



こだわりと商品イメージ

新入会員〈株式会社マルマサフード〉



株式会社マルマサフード

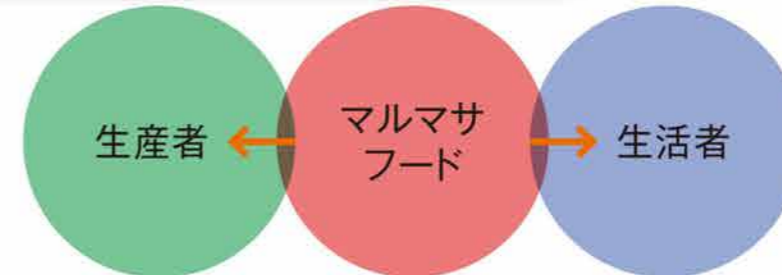
【基礎データ】

- 設立：1976年9月
- 従業員数：150名(2017年10月現在)
- 事業内容：青果物の販売及びカット野菜・カットフルーツの製造販売関連事業
- 所在地：〒546-0001
大阪府大阪市東住吉区今林2-6-3
- 電話番号：06-4306-9777(代表)
- U R L：http://www.kanemasa.co.jp

(株)マルマサフードは、1964年創業の青果物仲卸業を営む金正青果(株)の子会社として、1976年9月に設立されました。

マルマサフードは外食チェーン様を主要取引先として、大阪府堺市、埼玉県川越市、三重県菟野町に青果物専門の加工工場を有しています。仕入れから加工、販売までを一貫し、日々お客様に青果物やカット野菜をご提供しています。

外食チェーン店様でお食事の際、「この野菜の産地はどこかしら?」と気になる方も多く、食への関心が高まってきています。弊社が得意先様に提供している青果物やカット野菜を、みなさまはお客様としてお食事の時に召しあがっていらっしゃる。間接的ではございますが、とても身近な会社です。「マルマサフードの提供している青果物やカット野菜なら安心」と信頼される企業経営を行ってまいります。



生産者様・得意先様及び生活者様をよく理解し、フードコーディネート機能を活かして、三方よしの精神に沿った【食材・サービス】を川上、川下に提供し、価値ある架け橋の役割を担います。



代表取締役社長
金澤 向志



代表取締役社長
小野崎 聡

生団連 入会のご挨拶

はま寿司は安全でおいしい「寿司」を手頃な価格で日本全国に、そして世界へ提供してまいります。この度、この我々の事業を通じ、生団連の「国民の生活・生命を守る」という使命を共に追求し続けたいと思い、入会させていただきました。

日本食の代表である「寿司」を世界中の人々に楽しんで頂けるように、様々なことに挑戦してまいります。





国民生活産業・消費者団体連合会